

世田谷区立桜町小学校  
校長 中村 泰之 様

令和7年2月18日

## 令和6年度 学校関係者評価委員会評価結果報告書

世田谷区立桜町小学校  
学校関係者評価委員会  
委員長 毛利 任宏

世田谷区立桜町小学校学校関係者評価委員会は、昨年度同様、「学校関係者評価アンケート調査」「教員との面談」ならびに「学校運営の適宜見学（運動会、研究発表会、公開授業等）」を通じて、令和6年度の学校関係者評価について意見交換を行い、評価結果を取りまとめましたので、以下のとおりご報告いたします。

なお、地域、保護者、児童のみなさまには、「学校関係者評価アンケート」実施にご協力いただきありがとうございました。

### 1. 令和6年度学校関係者評価委員会開催状況

委員会	開催日	評価委員出席者（敬称略）	桜町小学校出席者
第1回	令和6年 6月25日	小暮、外館、毛利、山本	中村校長、平山副校長、上原副校長
第2回	// 9月17日	小暮、外館、毛利、安田	中村校長、平山副校長、上原副校長
第3回	// 12月14日	小暮、外館、毛利、安田、山本	中村校長、平山副校長、上原副校長 (面談のみ出席) 益尾主任教諭、赤石教諭、馬場教諭
第4回	令和7年 1月21日	小暮、外館、毛利、安田、山本	中村校長、平山副校長、上原副校長
第5回	// 2月18日	小暮、外館、毛利、安田、山本	中村校長、平山副校長、上原副校長

### 2. アンケート調査実施概要

(1) 調査対象 5・6年全児童、全児童保護者、地域・学校関係者

(2) 実施日 令和6年11月13日～11月27日

(3) 調査方法

#### ①選択回答アンケート

設問に対して5択（A とても思う、B 思う、C あまり思わない、D 思わない、E わからない）の選択回答アンケートを、Web 方式で実施した。評価項目は、区からの共通評価項目と当校独自評価項目で構成されている。昨年度からの変更点として、児童用の共通評価項目に「1.学習について（1）学ぶことが楽しい」が追加された。

#### ②自由記入アンケート

選択回答アンケートを補完し、より評価の精度を高める目的のために選択回答アンケートと併せて、Web 方式で実施した。（児童は除く）

#### (4) 配布数と回答数

##### ①選択回答アンケート

項目		5・6年児童	全児童保護者	地域・学校関係者
配布数	本年	286	945	29
	昨年	283	933	31
回答数	本年	308	663	18
	昨年	252	542	21
回答率%	本年	107.6	70.2	62.1
	昨年	89.0	58.0	67.7
	昨年差	+18.6	+12.2	△5.6

注) 5・6年児童の回答数が配布数より上回っているのは、複数回答できる仕様になっているため、二重に回答した児童がいたと思われる。

##### ②自由記入アンケート

属性	アンケート送付数	アンケート回答数	回答率 (%)	回答率昨年比 (%)
1年生保護者	164	31	18.9	+4.8
2年生保護者	138	29	21.0	+9.9
3年生保護者	159	18	11.3	+3.3
4年生保護者	158	15	9.5	△1.5
5年生保護者	153	9	5.9	△4.1
6年生保護者	133	12	9.0	+1.9
わくわく保護者	40	4	10.0	△2.8
保護者計	945	118	12.5	+2.3
地域・学校関係者	29	5	17.2	△5.3

### 3. アンケート回答結果について

#### (1) アンケート回答率について

- 選択回答アンケート回答率は、児童は複数回答があり正確な数値は得られないが、概ね 100%に近い数値と見られる。保護者全体は 70.2%と、Web 方式導入前の回答率 92.9%には戻らなかったものの、学校から保護者へのリマインドメールの強化によって昨年度より 12.2%の増加が見られた。
- 自由記入アンケートの回答率は、保護者全体で 12.5%と、昨年度より 2.3%の増加が見られた。地域・学校関係者は昨年比△5.3%と選択型アンケート回答率と同様に昨年度より減少した。また、各学年保護者の回答率は、2年生保護者の回答率と昨年からの増加率が学年で最も高く、続いて1年生保護者の回答率が昨年より増加している。例年のことながら、本年度も低学年保護者の回答率が高い傾向になっている。
- 一昨年度より Web 方式に変更となり、回答率が大幅に減少した。本年度は昨年度から更にきめ細かいリマインドメール対応をしていただき、回答率が70%台まで回復できた。小学校のご尽力に感謝申し上げたい。

#### (2) 児童（5・6年生）の選択回答アンケート結果

##### ①肯定的回答、否定的回答の多かった項目

- 30 の設問項目に対し肯定的回答の多かった項目と否定的回答（「わからない」回答を含む）の多かった項目は下記のとおりとなった。
- 肯定的回答の（%）は、「A とても思う」「B 思う」の回答合計を、否定的回答の（%）は、「C あまり思わない」「D 思わない」「E わからない」の回答合計を示している。

	多かった項目	回答の分析
肯定的回答	① 先生たちは、ていねいに指導してくれる。(96.2%) ② わたしには、わたしのことを大切に思ってくれる人がいる。(96.2%) ③ わたしは、「がんばってよかった」と思えることがある。(95.6%) ④ 学校行事は楽しい。(95.6%)	①は、先生についての項目で、昨年度より肯定的回答率が8.5%増加した。 ②、③は本校の独自項目であるが、いずれも昨年度より肯定的回答率が増加した。(②昨年差+9.7%、③昨年差+9.1%) ④は、学校行事（運動会・学芸会、学習発表会、宿泊行事など）についての項目で、昨年度より肯定的回答率が7.5%増加した。
否定的回答	① 学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。(42.1%) ② 区立中学校に関する情報が提供されている。(47.1%) ③ 自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。(27.7%)	①は、学校全般についての項目で、過去10年間を通じて否定的回答が高い傾向にあるが、昨年度より否定的回答率が9.9%減少した。 ②、③は、本校の今年度の重点目標である「キャリア・未来デザイン教育」の取組みの効果が反映されるキャリア教育についての項目で、②は、昨年度より否定的回答率が5%増加した。③は、昨年度より否定的回答率が6.8%減少した。

②昨年に比較して肯定的回答率が大幅に増減した項目

	項目（昨年比±%）	回答の分析
増加	学校が好き。91.5% (+12.6%)	学校全般についての項目である。
減少	区立中学校に関する情報が提供されている。52.9% (△5.0%)	上記、否定的回答②に記載のとおり。

### (3) 保護者の選択回答アンケート結果

#### ①肯定的回答と否定的回答の多かった項目

- 39の設問項目に対し、肯定的回答の多かった項目と否定的回答（「わからない」回答含む）の多かった項目は下記のとおりとなった。
- 肯定的回答の（%）は、「Aとても思う」「B思う」の回答合計、否定的回答の（%）は、「Cあまり思わない」「D思わない」「Eわからない」の回答合計を示している。

	多かった項目	回答の分析
肯定的回答	① 集団生活の中で互いに気持ちよく過ごせるために、約束を守ったり、譲り合ったり、他者を大切にすることの大切さを伝えている。(96.7%) ② 学校行事は、子どもにとって楽しい。(96.1%) ③ 家庭では、子どもが「おはよう」「行ってきます」「おやすみなさい」などのあいさつかができている。(94.1%)	①は、本校の今年度の重点目標である「多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に向けて」の取組みの効果が反映される本校独自項目で、昨年度より肯定的回答率が若干減少(△1.3%)したものの、高い水準にある。 ②は、学校行事（運動会・学芸会、学習発表会、宿泊行事など）についての項目で、昨年度より肯定的回答率が若干減少した。(△0.9%) ③は、本校独自項目で、昨年度より肯定的若干増加した。(+0.5%)
否定的回答	① 「学び舎」の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている。(47.8%) ② 家庭では、日頃からお子さんに家庭で	①は、学校からの情報提供についての項目で、過去10年間を通じて否定的回答が高い傾向にあるが、昨年度より否定的回答率が1.1%減少した。 ②は、本校独自項目で、例年否定的回答が高い傾向に

答	の役割を与え、決まったお手伝いをさせている。(37.0%) ③ 私は、今年度の学校重点目標を理解している。(34.6%)	あるが、昨年度より否定的回答率が5.2%減少した。 ③は、家庭と学校との連携についての項目で、昨年度より否定的回答率が5.7%減少した。
---	---	---

②昨年と比較して肯定的回答率が大幅に増減した項目

	項目（昨年比±%）	回答の分析
増加	本校は、地域に情報を提供している。60.9% (+5.9%)	地域との連携についての項目である。
減少	本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。66.6% (△7.9%)	学習指導についての項目である。タブレット端末利用等、IT化の影響と見られる。

(4) 地域・学校関係者の選択アンケート結果

- 18の設問項目に対し、肯定的回答の多かった項目と否定的回答（「わからない」回答含む）の多かった項目は下記のとおりとなった。
- 肯定的回答の(%)は、「Aとても思う」「B思う」の回答合計、否定的回答の(%)は、「Cあまり思わない」「D思わない」「Eわからない」の回答合計を示している。

	多かった項目	回答の分析
肯定的回答	① 学校行事の内容は充実している。(100.0%) ② 事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある。(100.0%) ③ 学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。(100.0%)	①、②は、学校行事（運動会・学芸会、学習発表会、宿泊行事など）についての項目で、肯定的回答率がいずれも100%であった。(①昨年差±0%、②昨年差+4.7%) ③は、学校の安全性についての項目で、肯定的回答率は昨年度同様100%であった。
否定的回答	① 「学び舎」の活動について、情報が提供されている。(38.9%) ② 学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。(38.9%) ③ 地域は、学校の教育活動や家庭での子育てに、さらに寄与できるところがあると思う。(16.7%)	①は、学校からの情報提供についての項目で、昨年度より否定的回答率が5.5%減少している。 ②は、地域との連携についての項目で、昨年度より否定的回答率が4%減少している。 ③は、本校の今年度の重点目標である「地域社会と協働した教育の推進に向けて」の取組みの効果が反映される本校独自項目で、昨年度より否定的回答率が2.4%減少している。

②昨年と比較して肯定的回答率が大幅に増減した項目

	項目（昨年比±%）	回答の分析
増加	①学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子がわかる情報が掲載されている。88.9% (+17.4%) ②地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している。88.8% (17.4%)	①は、学校からの情報提供についての項目である。 ②は、学校運営についての項目である。
減少	学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子がわかる。88.9% (△6.4%)	学校からの情報提供についての項目である。

(5) 自由記入アンケート結果

① 記載内容の仕分けについて

- 昨年同様、記載内容が様々であるため、評価の関係上、内容を意図、主旨毎の分類に仕分けを行

った。

- ・記載主旨の仕分けにおいて、一つに絞れない記載も見られたが、記載内容からしてウエイトが高い内容を考慮して仕分けを行った。
- ・記載意図は、「意見」「要望」「御礼」の3分類に仕分けした。
- ・記載主旨は、「学習指導」「生活指導」「学校行事」「学校運営」「教職員」「広報・情報提供」「教育環境整備」「安全管理」「学校全般」「その他」の10分類に仕分けした。

### ② 記載内容仕分け結果

記載意図 記載主旨	意見	要望	御礼	合計
学習指導	10	14		24
生活指導	1	4		5
学校行事		2		2
学校運営	14	20		34
教職員	14	3	3	20
広報・情報提供	2	3		5
教育環境整備		1		1
安全管理	2	4		6
学校全般	12	4	1	17
その他	9			9
合計	64	55	4	123

### ③ 自由記入アンケートまとめ

- ・記載意図は、「意見」と「要望」が多く、続いて「御礼」であった。
- ・「意見」の記載主旨は、「学校運営」と「教職員」に関する記載が多く見られた。「学校運営」では、学校経営方針の共感や学校からの配布物、案内の不備、PTA や校外委員の選任についての意見が見られた。「教職員」では、校長先生のマネジメントや担任の先生の対応についての意見が見られた。
- ・「要望」の記載主旨は、「学校運営」と「学習指導」に関する記載が多く見られた。「学校運営」では、昨年同様であるが、特に低学年保護者からランドセルの負荷軽減（タブレット持ち帰りの見直し）や給食の対応（量、質、食事時間）についての要望が見られた。「学習指導」では、タブレット学習（機能向上や自宅での利用制限）や総合学習の情報共有等の要望が見られた。また、「安全管理」で登下校時の見守りや小学校のセキュリティの要望、「学校全般」では、土日のグランド使用時の駐輪場使用要望が見られた。
- ・「御礼」の記載主旨は、「教職員」では担任の先生への感謝や「学校全般」では学校全体の教育環境に関する感謝の記載が見られた。

## 4. 所見および提言

### (1) 本校の令和6年度重点目標に関して

- ・本校の重点目標1「『キャリア・未来デザイン教育』の実現に向けて」の取組みの効果は、アンケート調査のキャリア教育についての項目に反映されるが、児童アンケート結果の、「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。」の肯定的答率が 72.3%と昨年度から 6.8%増加しています。また、「目標をもち、その実現に向けて努力している。」の肯定的答率が 89.8%と昨年度から 10.5%増加しています。これは、一昨年度より「自ら学び、内から育つ子ども」をテーマに、生活科・総合的な学習の時間を軸にした教科横断的なカリキュラム・マネジメントの推進の研究に取り組まれてきた効果の表れであると思います。総合的な学習の時間の公開授業見学を通じて、カリキュラム・マネ

ジメントの効果が児童アンケート結果に繋がっていることが理解できるところです。しかしながら、肯定的回答率が上昇したとはいえる90%を超えていない状態です。学校の自己評価では、「探求的な活動を通じて身に付いた力が『自分の生き方や将来』に結びつくのだというフィードバックをキャリアパスポート等の活用を通じて、さらに意識的に行っていくことが必要である。」と課題が記載されていますので、引き続き課題解決の取組みを注視したいと思います。

- ・本校の重点目標2「教育DXの推進」の取組みの効果は、児童アンケート調査結果の「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」の肯定的回答率が89.5%と昨年度から5%増加し、保護者アンケート結果も肯定的回答率が79%と昨年度から2.4%増加しています。保護者アンケート結果を見ると、高学年保護者の肯定的回答率が高い傾向にあり、一人一台のタブレット端末の学習の基盤ツールの活用が定着されてきたと思われます。また、「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」のアンケート調査結果は、児童の肯定的回答率が86.5%と昨年度から2.8%増加しているのに対し、保護者の肯定的回答率が66.6%と昨年度から7.9%減少しており、児童と保護者の認識に違いが見られます。保護者の自由記入アンケートを見ても、タブレット学習に対する要望（機能向上や自宅での利用制限）の記載が多いことから、教育DXの推進の取組み効果が保護者に十分に伝えられていないのではないかと思われます。学校の自己評価では、「これから個別最適な学びを実現していくためにも、タブレット端末の活用は必須である。その一方で、その使用時間や使い方において自己管理能力が求められている。」と記載されているように、タブレット端末の使用は、子ども自らが理想的な使い方ができ、保護者の不安を払拭できるような学習指導の取組みを注視したいと思います。
- ・本校の重点目標3「多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に向けて」の取組みの効果は、児童アンケート調査結果の「わたしには、わたしのことを大切に思ってくれる人がいる。」の肯定的回答率が96.2%と昨年度から9.7%増加し、「わたしは、がんばってよかったと思えることがある。」の肯定的回答率も95.6%と昨年度から9.1%増加、「わたしは、だれかの役に立っていると思うことがある。」の肯定的回答率は81.3%と昨年度から8.6%増加しています。いずれの項目も、3年前から始まった「にじいろ班活動」（たてわり班活動）や、クラブ活動および委員会活動の活性化に努められた効果の表れだと思います。保護者のアンケート調査結果の「集団生活の中で互いに気持ちよく過ごせるために、約束を守ったり、譲り合ったり、他者を大切にすることの大切さを伝えている。」の肯定的回答率は96.7%と全設問の中で最も高い肯定的回答率となっており、継続して取組みを注視したいと思います。
- ・本校の重点目標4「地域社会と協働した教育の推進に向けて」は、(4)学校、保護者、地域との連携についての項目で述べます。
- ・本校の重点目標5「『学校における働き方改革』の推進に向けて」の学校の自己評価は、「創造的余白を生むために仕事内容の精選等は必要なので組織的に取り組んでいく。しかし、世田谷区の研究指定校及び世田谷区小学校教育研究会の研究推進校としての研究についてはさらに充実を図る。我々教師の授業力をはじめとした様々な力を向上させることができ、授業改善につながり、そのことが結果的に働き方改革を推進するを考えるからである。」と記載されており、引き続き、児童のみならず教職員がワエルビービングとなるような取組みを注視したいと思います。

## (2) 選択型アンケートと自由記入アンケートから見られる留意事項について

- ・保護者の選択型アンケートの中で、「私は、今年度の学校重点目標を理解している。」の肯定的回答率は、65.4%と昨年度より5.7%増加したもの、低い水準にあり、特に低学年保護者が低い傾向にあります。(2年生保護者の肯定的回答率55.3%) 学校の重点目標の理解なくして、家庭と学校との連携は図られませんので、保護者への周知の強化をご検討願いたいと思います。
- ・選択型アンケートと自由記入アンケートの両方に共通することですが。地域・学校関係者のアンケート配布数が29名と少ないため、回答率のぶれが大きく、自由記入が少なく、本校の重点目標である

『地域社会と協働した教育の推進に向けて』の効果を見るうえで正しく反映しにくいと思います。総合的な学習の時間で交流が生じた桜新町商店街関係者等、配布対象者数の増加をご検討願いたいと思います。

### (3) 安全管理について

- ・安全管理については、保護者アンケート調査結果の「本校は、安全な学校づくりを進めている。」の肯定的回収率が90.9%と昨年度から1.6%増加し、「本校は、避難訓練やセーフティ教室など、子どもに安全に関する指導をしている。」の肯定的回収率が93.9%と昨年度から1.1%増加、「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。」の肯定的回収率も85.3%と昨年度から3%増加し、学校の安全性についての項目の肯定的回収率は全て昨年度から増加しました。また、地域のアンケート調査結果の「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」の肯定的回収率は昨年度同様100%となっています。教職員の安全教育やPTA、地域と連携した安全指導の効果だと思います。
- ・その上で、自由記入アンケートに学校のセキュリティに関する（不審者対策）記載がありましたので、ご留意いただきたいと思います。

### (4) 学校、保護者、地域との連携について

- ・本校の重点目標4『地域社会と協働した教育の推進に向けて』の取組みの効果は、保護者アンケート調査結果の「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。」の肯定的回収率が76.7%と昨年度から2.7%増加、「本校は、地域の活動などに協力的である。」の肯定的回収率が75.1%と昨年度から3.3%増加、「本校は、地域に情報を提供している。」の肯定的回収率も60.9%と昨年度から5.9%増加し、地域との連携についての項目の肯定的回収率が全て昨年度から増加しました。地域・学校関係者アンケート調査結果も全ての項目の肯定的回収率が昨年度から増加しています。これは、生活科・総合的な学習の時間で行われた活動内容（地域のひと・もの・ことの探究活動）や桜新町ねぶたまつりのステージで本校の「パフォーマンスクラブ」のダンス発表等、地域とのつながりを深める学習、活動の効果が反映されたものだと思います。
- ・本校が、昨年12月に世田谷区のキャリアアワード2024奨励賞を受賞したことは、これらの活動が評価されたと聞いております。PTA、学校運営委員会の連携による、地域を学びの場とする取組みが、今後益々充実していくことを期待しております。

以上